
真夜中のタオル

遙風 霸鶴渡

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

真夜中のタオル

【Zマーク】

N1606F

【作者名】

遙風 翁禪渡

【あらすじ】

その晩、ボクを訪ねて来たのは……。

その夜、ボクは眠れずにいた。

別に何かが気になっていたからではなくて、ただたんに眠れなかつただけ。

ボクはベッドの上で、低い天井をぼおうつと見つめていた。すると、頭のななめ右上にある窓を……何ががトーンって、たたいんだだ。

最初は風かと思つたんだけど……どうにも違つと思つ始めた。
なんか例えるのは、むずかしいんだけど……消音ゴムが当たつている
よつな柔らかい音。

ボクは不思議に思つて、30センチ四方の、その窓をのぞいてみた。

「あー」と声をあげちゃつたけど、そんなにおどろくことじゃない。
だって窓をたたいていたのは、ただの細長いタオルだつたんだから。

タオルはボクみると、白い体をクネクネさせて、よろこんだ。
外は真つ暗で、なんだか寒そつたから……ボクは仕方なく、窓を開けて中に入れてやつた。

「いやー、すみませんねえ」

タオルは100センチぐらこの体をヒラヒラさせて、まるでアーティストの如くも知れぬ口でやつ言つた。

「いいよ別に。それより、なんかよつへ」

ボクは頭を搔きながら、そう答えた。

「あのですねえ、サイトウさんちを知りませんか？」

タオルが伸びやかで毛羽立つた体を、ぐるぐるひとひねりとひねり言つ。なんか首をかしげているみたい……もしかしなくても困つていてるのかもしない。だからボクは、サイトウさんちを指さして
「あれだよ」と教えてあげた。

サイトウさんは、真向かいに住む謎の人。頭をキンキラリンにしていて、いつも違う女人の人を連れている。お父さんはサイトウさんのことを、よく『チンピラ』と呼ぶ。

チンピラって何だろ？

珍ピラフの略？ なんだそれ……。

よくわからなこなび、お父さんせチンピラがキライみたい。

「こや～あつがとつぱれこます」

タオルは頭を何度も下げながら外へ出て行った。表情はわからな
いけど、体のヒネリ具合からして喜んでいるのだとわかった。

ボクは窓を閉めて、タオルに手を振つてからベッドに入った。

良い事をしたあとは、気分まで良くなる。

それからは、ぐっすり……朝まで眠りの底をただよつた。

翌朝ボクは、うわあんづわあんといつ、パトカーのサイレンで目
が覚めた。

なんでも、サイトウさんが死んでしまつたらしご。コウサツ……つ
て何だるつね？

ボクは、何となくタオルが氣の毒になつた。サイトウさんは、何
時に死んだんだろう？

タオルはサイトウさんに会えたのかな……。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1606f/>

真夜中のタオル

2010年10月28日07時01分発行